

大阪北部地震から1年

今日6月18日で、大阪北部地震から1年経つ。この災害をしっかりと記憶するために、レポートに記録しておきたい。

大阪北部地震は、午前7時58分ごろに発生した。月曜であり、地下鉄に乗り大阪市大の図書館に向かっていた。地下鉄御堂筋線「本町駅」に停車してまもなく、かなりの横揺れを感じた。

駅員さんが緊張した感じで、「早く地上に」と案内していた。大阪市職員OBの方によると、この時間帯は職員の交代時で職員も多いので、なんとか対応できた。職員数が少なく、訪日外国人も多い時間帯では、もっと混乱していたのではという。地下鉄「民営化」により、駅職員も削減されてきた。

御堂筋に出ると、ちょうど通勤時間帯であり、サラリーマンなどで溢れていた。ビルの片隅に腰かけてiPadで検索すると、大阪を中心にかなり強い地震が発生して、交通が寸断されているようだ。どうしようか迷ったが、とにかく自宅の方に向けて、御堂筋を北に歩くことにした。まずは本町から淀屋橋まで歩いたが、多くの人とすれ違った。淀屋橋で市役所に立ち寄った。災害対策のため混雑していると思ったが、まだ早いのか閑散としていた。市役所にたどり着けない職員も多かったようだ。

市役所から梅田まで行くと、地下街は閉められ、JR大阪駅前には大勢の人がたむろしていた。途方にくれる訪日外国人の姿も目についた。電車の回復は不明であり、自宅へ歩くことにしたが、淀川の方に向かうバスを見つけた。それに飛び乗り、運転手に聞き、天神橋筋9丁目で降りた。そこから淀川に架かる長柄橋を渡り、新大阪近くを通り自宅にたどり着いた。エレベーターに乗ろうとすると「停止」状態だった。疲れた足で6階まで上がった。

自宅は本棚から何冊かの本が飛び出したが、大きな被害はなかった。停電はしていなかったが、ガスが出ない。テレビをつけると、地震のニュースのなかで、ガス「緊急停止」の解除方法を流していた。それに従い操作して、ガスも使えるようになった。

写真下は3日前の朝日新聞6月15日朝刊。「地震の影響で鉄道が運休したため、新淀川大橋を徒歩で渡る人たち=2018年6月18日午後7時30分」と。梅田方面から新大阪の方へ向かう行列。記事には「災害時は出社不要」ルール浸透という大きな見出し。帰宅困難を防止するため、自宅に待機などと書かれている。

1997年1月17日の阪神・淡路大震災の頃から「ライフライン」という言葉が使われるようになった。大阪北部地震でも「ライフライン」の大切さをあらためて思い知った。



(2019年6月18日)